

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年9月1日発行 (毎月一回発行) 第729号

ISSN 0286-7001

本の ひろば

9 SEPTEMBER
2018

出会い・本・人

創造・救済のわざと人間 田島 卓

川上直哉 著

被災後の日常から 齋藤 篤

本・批評と紹介

香山リカ 著
迷える社会と迷えるわたし 藤掛 明

一色 哲 著

南島キリスト教史入門 後藤 聡

N.T.ライト 著／本多峰子 訳
悪と神の正義 横田法路

近刊情報

書店案内

大澤耕史 著
金の子牛像事件の解釈史 勝村弘也

関川泰寛 監修／堀江知己 訳
オリゲネス イザヤ書説教 小高 毅

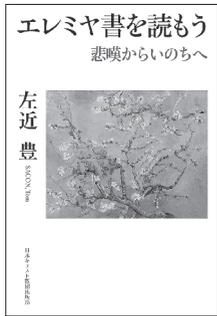


『信徒の友』連載に加筆して単行本化

エレミヤ書を読もう

悲嘆からいのちへ

左近 豊



◆四六判 並製・136頁・1,512円

2018年8月24日刊行予定

祖国滅亡のさなかに、民と悲しみを共にし、未来の希望を示した預言者エレミヤ。彼の言葉を現代に生き生きと甦らせる待望の書。

神についていかに語りうるか

プロティノスからウイトゲンシュタインまで

W. シュスラー 編 芦名定道 監訳



◆A5判 上製・490頁・7,020円

2018年8月24日刊行予定

神について語る事ができるのか。神学・哲学の根源的問いに取り組んだ、西洋古代から現代の神学者、東洋思想まで、古今東西の思索を紹介。

イベントのご案内

関野和寛牧師『すべての壁をぶっ壊せ！』
出版記念イベント

日時 2018年8月25日(土)
15時～17時

会場 日本福音ルーテル東京教会
東京都新宿区大久保1-14-14

参加費 無料(申込不要)

●プログラム

ロッケン牧師と共に礼拝体験
トーク&弾き語り

サイン会 主催/日本福音ルーテル東京教会
交流会(有料500円) 後援/日本キリスト教団出版局

『カール・バルト 未来学としての神学』刊行記念
「現代日本で、キリスト教神学は何かの役に立つのか？」

講師: 福嶋 揚

日時 2018年9月5日(水)
19時30分～

会場 ジュンク堂書店 池袋本店 4階カフェ
東京都豊島区南池袋2-15-5

参加費 1000円(ドリンク付き/要予約)

●お問い合わせ・ご予約
ジュンク堂書店 池袋本店 TEL 03-5956-6111

『NTJ 新約聖書注解 ルカ福音書 1章～9章50節』刊行記念 NTJ講演会@神戸

日時 2018年9月17日(月・祝)
14時～16時30分

会場 日本基督教団 主恩教会
神戸市灘区原田通1-3-11

参加費 無料(申込不要)

●プログラム

第1部 嶺重 淑 講演
貧しい者への福音——ルカ福音書の中心的使信

第2部 山崎英穂&嶺重 淑 対談
「マリアの賛歌」から今、何を聴くか

主催/日本キリスト教団出版局、神戸キリスト教書店 協力/主恩教会



出会い・本・人

創造・救済のわざと人間——田島 卓

モルデカイ・マルティン・ブーバーの『我と汝』をこの場できりあげるのは、少し気取りすぎているかもしれませんが、やはりこの書を挙げなければなりません。

物心がつかつかないかの頃には『はらぺこあおむし』のような定番とともにターナー・ワイルドスミスの『こどものための聖書物語』が置いてあったような家庭でしたから、聖書の世界観にはそれなりに親しんでいたのですが、大学で異なる教派の師友たちに揺さぶられ、さらに将来のことを思いあぐねていたときにこの本に出会いました。

既存の哲学・神学は「我―それ」という、形骸化し、主体の操作のもとにある、独我論的なものだという、ブーバー一流の断定的な調子によるわかりやすさは、まだ何もわかっていなかった天邪鬼な若造にとつて怪しげな魅力がありました。さらに「汝」との関わりによつて開けてくる世界の啓示は、理想主義的な陶醉感をもたらしました。しかし、それ以上に心を捉えたのは、「世界は神の戯れではない。世界は神の運命の場である」という句でした。

人ではなく、神こそが人間を探し求めているのだという考えは、ユダヤ・キリスト教思想の中でときおり見られるのですが、ブーバーの場合、人間を探し求める神の真摯さが「運命」という言葉になります。「神がもしも人間を必要としていなければ

ば、どうして人間は、きみは存在しているようか」。人は神を選び取り、立ち帰ることよつて神の救いのわざに参与することが許されます。「世界の側における立ち帰りという出来事はしかし、神の側においては救済なのである」と。

もちろん、人間は塵芥にすぎません。けれども塵芥にすぎないはずの一人の人間の誕生によつて、その度ごとにただひとつの世界がひらかれます。そしてこの世界は、ほかの誰にもなしえない固有の仕方でも、もつとも普遍的な世界に寄与します。だからこそ、ブーバーは神を「汝」と呼ぶのだと思います。「汝」は隔絶した他者ではなく、「汝」を語り出すためには、「我」のもつとも固有な在り方を差し出さなければなりません。他の誰かでもありうる仕方でも「汝」と語り出しても、実のところ「彼女・それ」にしかならないからです。

「我」が「汝の世界」とともにもつとも固有な在り方においてひらかれ、より普遍的な世界に寄与するとき、塵芥にすぎない「我」が世界の創造と救済に与ることを許されるという途方もないヴィジョンを、この書は指し示しているように思われるのです。

(たじま・たかし 国際基督教大学教育研究所・キリスト教と文化研究所助手、放送大学ほか非常勤講師)

万年求道者から見たキリスト教の魅力とその使命
香山リカ著

迷える社会と迷えるわたし 精神科医が考える平和、人権、キリスト教

香山リカさんは、問いかける人である。たとえ状況が揺れ、問題が動いていても静観はしない。その場に身を投じて、率直に問いかけるのである。その問いかけは純粹で、真剣で、行動的で時に過激ですらある。すでに精神科医として、大学教官として、言論人として、幅広い活動を展開している。しかし、そこでとどまらない。その時々コミットしたテーマに向かい、真剣に問いかけているのである。

本書『迷える社会と迷えるわたし』は、その香山リカさんがキリスト教界に向けて問いかけた結果生まれたもので、多作家の著者にして初めてのキリスト教書籍である。ちなみに、香山さんは子どもの頃から近所の教会学校に通って親しみ、中学生の頃には教会を離れたが、四〇代になってからまた教会に通い出している。キリスト教には非常に親しみを覚えているが、いろいろな思いがあつてまだ受洗には至っておらず、今年こそは洗礼を受けようと思いつつ「万年求道者」を続けているという。そんな香山さんにはキリスト教関係からも講演依頼がくるので



藤掛 明

あるが、受洗していないことを伝えると頓挫することもあるし、あえて教会の外部からの話が聴きたいということで企画が進むこともある。依頼する側はあえて依頼し、香山さんも、そうした講演には自分の生き方の今を重ね、言葉を紡ぎ出していく。

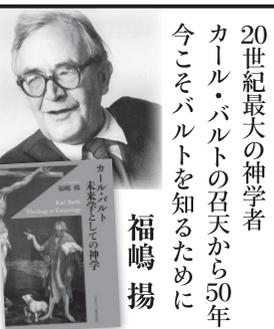
本書の前半はこのような三つの講演から成っている。前半の第一の講演は、キリスト新聞社の雑誌のセミナー講演、第二の講演は、聖学院大学総合研究所主催のキリスト教カウンセリング研究講演会、そして第三の講演は、カトリック正義と平和協議会講演会のそれぞれの記録である。

後半は、本書のために企画された賀来周一氏との対談が続く。いわば問いかけたことに回答する人が現れた格好だ。我が国のキリスト教カウンセリングの第一人者に、香山さんがいろいろと問いかけ、カウンセリングを中心にキリスト教会の牧会現場のリアルな事情について教えを請うていく。うまい構成である。さて本書では、精神科医の眼を通してみた社会や現代人の心の分析が語られ、香山さんの今の立ち位置から見える教会のあり方について触れていく。その主張は明快で、医療の限界を見

据え、キリスト教の果たす役割への期待を語る。また人々がキリスト教やキリスト教的なものを求めているのに、そういう人々と教会をつなぐ決定的な橋ができていないと分析し、神社仏閣のパワースポット・ブームを横目に、それでは教会は何を入り口にしたら良いのかと問うのである。

考えてみると、これは従来にはないスタイルである。ふつう、教会の魅力や教会の外に向けて宣伝をするのはもっぱら教会がクリスチャンである。しかし、香山さんは未信者としての立ち位置で、外から内（教会）に発信しているのである。そのため香山さんの観察や分析はささいなことも含めて新鮮なメッセージとして響いてくるのである。

また立ち位置との関連でいうと、香山さんと同じように教会の外（それもすぐ近く）にいて迷っている人はそういう点で共感するものがあるだろう。とりわけ長く求道が続けることで肩身の狭い思いをしている人がいるとすれば、そうした気持ちを感じてほぐされるに違いない。



福嶋 揚

20世紀最大の神学者
カール・バルトの召天から50年
今こそバルトを知るために

カール・バルト 未来学としての神学

聖書が示す未来の希望を現代世界に語ったバルト。本書は世界の闇が深まりゆく今こそ、バルトの生涯と思想をたどりなおし、真の希望を捉えようと、読者を誘う。

四六判 200頁・1944円

本書の刊行を記念して著者によるトークイベントを開催！
詳細は表紙裏をご覧ください。



伝道のステップ1、2、3 信徒と牧師、力を合わせて 鈴木 光

現代の日本でどうやって伝道するか、気鋭の牧師が具体的に提案する。伝道する教会になるための格好のテキスト。

A5判 128頁・1512円

最後に、対談者の賀来周一氏についても述べておきたい。賀来氏は、円熟した対話者として香山さんの問いかけに巧みに応答する。時に回答し、時に視点を換え、時に質問を投げ返して応じるなかで、受洗についてもこう触れる。
「わかって洗礼を受けたら信仰が信念になってしまふ。信じるか、信じないかは、決断の問題だから、思いっきりがっていると「思います」(一六〇頁)と。もしかしたら本書は、上質なキリスト教伝道書の役割も担っているのかも知れない。

通常、人が問いかけるなら、返答がある。問いかけ続けるなら相互作用的な何かがある。本書には、そうしたプロセスが始まる予感がある。最初の返答者として本書を希有なタイピングで出版したキリスト新聞社には敬意を表したい。

(ふじかけ・あきら) 聖学院大学心理福祉学部教授、臨床心理士
(四六判・一七六頁・本体一〇〇〇円＋税・キリスト新聞社)

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eiguou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

「悪の問題」とどのように取り組めばよいのか？

N・T・ライト著
本多峰子訳

悪と神の正義



横田法路

本書のタイトルが示すように、今世界で最も注目を集めている英国の新興聖書学者N・T・ライトは、わたしたちが悪の問題に向き合うことの今日的必要性を論じる。多くの場合、わたしたちは悪の存在を無視しようとする。その結果、面と向かって悪に襲われた時、わたしたちは動揺し、悪に対して未熟な反応をしてしまう(9・11への一連の反応が、本書の執筆の背景にある)。

悪の問題は、しばしば神議論の問題として取り扱われてきた。「全能かつ善なる神がおられるなら、どうしてこの世界に悪や苦しみがあのか」という問いに対し、神の正義の、論理的な説明を試みるのである。

しかしながらライトが本書でとるアプローチは、それとは異なり、聖書が語っている内容と、その語り方に注目する。本書の核心部分において、福音書におけるイエスの物語が取り上げられる。それは、「神が悪に、受肉したご自分に最悪のことをなすがままにさせることによってあらゆるレベルの悪に対処する行為の物語」であり、そこにおいて悪は「自分たちの力を消

耗し尽くしてしまう」(二二七―二二八頁)のである。もちろん、この十字架理解は、イースターの視点からのみ得られるものであるが、その時点から、イエスの従順な死によって成し遂げたことが見え始めるのである。

このイエスの死と復活が成し遂げたことは、「世界から悪をすべて取り除き、正義と美と平和の新しい創造を確立しようとする神の究極的な目的の基礎であり、モデルであり、保証である」。そして神の未来は、イエスにおいてすでに現在に突入している。

それでは、教会の務めは何であろうか。一つは、十字架の上で成し遂げられたキリストの勝利を実行すること、すなわち、「苦難を受け入れる愛を通して、この世に神の勝利を実行していくこと」(二二二頁)である。もう一つは、神が約束してくださった未来の世界(悪からすっきり解放された最終的な世界)を、聖霊によって先取りすることである。

このような教会の務めの実践として重要なのが、十字架と聖霊による「救し」である。

「私たちが約束されていることは、神が、すべては良く、あらゆるものごとはみな良くなる世界を造ってくれるであろう」と、その世界では、救しが礎石の一つで、和解放がすべてのものを一つにまとめるセメントになるといふことだ。……私たちは、イエスや聖霊の業から流れ出る救しを、奇妙で力強いこととしてありのままに理解するとき、神が私たちを救し、私たちが他人を救すその救しが、罪や怒りや恐れや死を私たちに縛りつけている呪縛を断ち切るナイフなのだといふことに気づき始める」(二〇一―二〇二頁)。

したがって、「悪の問題」に対するわたしたちの第一の務めは、ライトによれば、「解き得ない哲学的問いに答えるよりもむしろ、『この悪の世』のさなかにあつてさえも、イエスの死に基づき彼の聖霊の力において神の新しい世界のしるしを生まされさせる」(九頁) ことなのである。

以上が本書の概要であるが、最後に感想を少し述べておきた

い。「自然災害」によって、突然の苦しみの中に置かれた人たちと関わらせていただく機会がある。そのような苦難に対して、正直、私には説明できないことや、沈黙せざるを得ない場面が多々ある。反対に、無理して語った説明の言葉が、空虚に響くこともある。しかしながら聖書は、「悪の問題」に対しての説明を第一義的に与えようとしているのではなく、「悪について神が何をなしてくださったか、何をなしてくださっているか、そして何をなしてくださるだろうか」(一六〇頁)を明らかにすることで、今日のわたしたちが「悪の問題」に、どのように取り組むのかを、つまりは、「神の新しい世界のしるしを生まされさせる」ことを教えているというライトの指摘は、「悪の問題」に取り組もうとする者たちに、謙虚さと共に、勇気と希望を与えてくれる。

(よこた・ぼろろ) NPO法人九州キリスト災害支援センター理事長
(四六判・二二六頁・本体二〇〇円+税・教文館)

「苦しみは耐えるだけではない、愛する力となる…」

●著者の生涯記録写真16頁 四六判上製 592頁 定価(本体5000円+税)
母親の育児放棄・虐待に耐え、なおも母への孝愛を示す感動の記録。母の死後、闘病生活のなかで見たリアルなキリストの公生活三年の記録「私に啓示された福音」の序章をなす、歴史的にも貴重な奇蹟的証言。



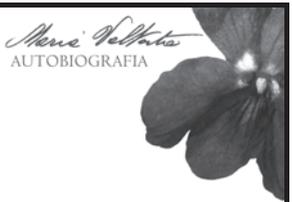
春秋社

東京都千代田区外神田2-18-6
03-3255-9611 FAX 03-3253-1384
http://www.shunjusha.co.jp/

自叙伝

マリア・ヴァルトルタ

殿村直子訳



「罪」の物語のユダヤ学の立場からの考察

大澤耕史著

金の子牛像事件の解釈史

古代末期のユダヤ教とシリア・キリスト教の聖書解釈



勝村弘也

本書は出エジプト記三三章に記された金の子牛像事件の解釈史に関する研究である。ヘブライ語聖書（旧約）の特定のテクストに関するキリスト教とユダヤ教の立場からの解釈の比較研究という点では、目新しいものではなく、この種の研究にはすでに相当な蓄積がある。しかし、本書には以下のような特徴がある。まず聖書学や神学の立場からの研究ではなく、「ユダヤ学」からの研究である。これはもちろんユダヤ教の立場からということではない。次にキリスト教の側からの解釈ということ従来ほとんど西方教会の文献だけを問題にしてきたのであるが、本書ではアフラハトやニシビスのエフライムに代表されるシリア・キリスト教の側からの解釈に相当の頁数がさかれている。彼らはヘブライ語と同じセム語圏に属する言語で著作活動を行なったと言う点だけからみても、その重要性は理解できる。本書が扱っている範囲は、古代の文献に限定される。キリスト教では四〇〇年頃まで、ユダヤ教ではアモライム期、つまり五〇〇年頃までのものになるが、このような時間的ずれは大きな問題ではない。キリスト教の教父文献の場合は、著作年

代がたいてい明確であるのに対して、ユダヤ教の伝承というものは、口伝が発生してから文書に記述されるまでの間に一定期間のずれが生じるからである（二一九頁）。
本書全体の構成を見ると、第一章で先行研究や研究方法などについて論じた後、問題の聖書テクストの構成要素である「罪」「アロン」「モーセ」「イスラエルの民」「サタン」に関する解釈を比較考察している。先行研究では、ユダヤ教の伝承を扱うに際して「ラビの」という一つのカテゴリーにまとめてしまふ傾向が強かったのに対して、大澤は「その内部の、例えばタナイム期とアモライム期の差異」を問題にする（一八頁）。ユダヤ教伝承をこのように時代を追って考察する方法は第三章「アロン」に関する解釈では、十分に成功している（六七頁以下）ので、ここではこの章について紹介する。ヨセフスの『ユダヤ古代誌』では出エジプトの出来事について語る際に、子牛像事件そのものに言及しない。これは彼が一貫して大祭司「アロン擁護の姿勢」をとっている事と関係がある（六八頁）。アレクサンドリアのフィロンの場合は、子牛像事件のこ

とは語るがアロンには言及しない。これは意図的にアロンの責任を否定しているからである（七一頁）。しかし、タンナイム期の他の伝承では、「アロンの罪を認めた上でその罪はほぼ赦されたとする姿勢」が見える（七六頁）。アモライム期になると解釈は非常に多様になる。何らかの根拠を挙げてアロンの行為を正当化するもの、断罪されるべきなのは民であるとすもの、さらに子牛像を作ったのは異邦人であるとす解釈までが見れる（七六頁以下）。なお、ユダヤ教の解釈の伝統に関連して、出エジプト記三三章二一―二五節の「第二の子牛事件」は朗読されるが、翻訳は禁止されている事が注目される（一二三頁）。興味深いのは、アロンの責任を軽減しようとする傾向が、テルトゥリアヌス等のラテン教父にもみられる事である（八四頁）。同じ傾向はシリア教父にも認められるが、エフライムの場合、その説明の仕方がユダヤ伝承と共通している（八七頁以下）。ユダヤ教を攻撃する材料に出来るはずのこの事件において——この点については第五章「イスラエルの民」で問題にな

っている——、キリスト教もアロンを擁護する解釈を多く残しているのはなぜかを大澤は問題にする（九〇頁）。この点についてイエスが神から大祭司としての身分を与えられたからだとするだけでは十分な答えにはならない。ヘブライ人への手紙ではアロン系ではなくメルキゼデク系祭司が問題になっているからである。この問題については考察が十分ではないので死海文書も視野に入れた今後の研究に期待する。
第6章「サタン」には相当の頁数がさかれています内容的にも興味深いのが、やや雑な論述になっている感じが否定できない。古代末期のサタン像を取り上げるためには、比較宗教学的な考察が不可欠であるし、マステマ、ベリアルだけではなくトビト書のアスモダイ、さらにはサムエル記上の「悪霊」までが視野に入ってくるはずだからである。なお全体的に初代キリスト教史への理解が不足している印象があるので、さらなる学びに期待したい。
（かつむら・ひろや＝神戸松蔭女子学院大学名誉教授
A5判・二二〇頁・本体五四〇〇円＋税・教文館）



教文館の本

http://shop-kyokwan.com/



A・E・マクグラス 本多峰子訳 ● A5判・734頁・本体7,200円

旧約新約聖書ガイド

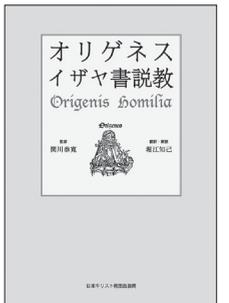
創世記からヨハネの黙示録まで

聖書の言葉に生きる神学者による聖書の手引きである。優れた、豊かな、そして確かな一冊である。 深井智朗氏（東洋英和女学院院長）推薦！

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 内容見本・図書目録●価格は税抜

聖書の新しい意味を発見する喜びに満ちた説教
 関川泰寛監修
 堀江知己訳

オリゲネス イザヤ書説教



小高 毅

きるからです」(ヨシユア記講話 九・8)。

聖書を読むとはどういうことなのであろうか。
 新約聖書のペトロの第二の手紙は言う。「何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです」(1・20-21)。聖書を通して神の言葉を聞くのである。しかもただ聞くのではない。神の御子である御言葉を通して聞くのである。

オリゲネスは言う。「イエス(ヨシユア)は律法の奥義をわたりわたり明らかにされるため、イエス「ご自身」が律法をわたりわたり読んでくださるのです。カトリックの教会に属するわたしたちは、モーセの律法を退けることはしません。それを受け容れます。しかし、イエスがそれをわたしたちに読んでくださる限りにおいてです。なぜなら、このようにイエスがわたしたちに読んでくださり、イエスが読んでくださることで、わたしたちがその意味とその精神を捉えることができるようにしてくださるなら、わたしたちは律法を正しく理解することができ

う苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのでないか。そして「モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたって御自分について書かれていることを説明された」(ルカ24・26-27)。まさしく、イエスこそが聖書全体の中心的なテーマであり理解する鍵でもある。

キリスト教における最初の聖書学者かつ神学者と評されるオリゲネスは、ヨハネ福音書のカナの婚宴での奇跡を手掛かりにして言う。「このぶどう酒は」最初汲まれた時は水でしたが、イエスが変わらされた時、ぶどう酒となったのです。確かに、現実のところ、イエス以前には「聖」書は水でした。イエス「が来られて」から、わたしたちにとって、「聖書は」ぶどう酒となりました」(ヨハネ注解 一三・62・438)。

この僅か数行の引用の言葉を目にして、これを読んでおられる方は、恐らく二つに分かれるのではなからうか。「えっ、どこを根拠にそんなことを言うのだよ。これはあまりにも無茶だ

よ」。あるいは「えっ、何だっつて。でも面白いじゃないか。確かに言われてみればそうだよ。聖書はぶどう酒だよ。ただし、キリストの到来の結果がもたらしたことだよ」と。

同じことは本書に記されたイザヤ書6章の「二人のセラフイム」を「我が主イエスと聖霊です」と言い切るのに接する時(二三頁)、にも言えるであろう。また、二人のセラフイムが呼び交している場面(イザヤ6・3)から、「神の聖なる様は、その(聖なる)事柄のゆえに、聖霊以外の何ものも聞き取ることのできない仕方によって救い主が告げ知らせ、しかし同様に、救い主以外の誰一人、聖霊が告げ知らせるところの、神の神聖さが住まいを得る様を聞き取ることのできないのです」(四九頁)と言って三位一体論を展開している箇所も同様であろう。

生存中から熱烈な信奉者に囲まれる反面、誤解と非難にさらされ、死後も変わることがなかったことに関しては、訳者があとがきで述べているので、これ以上触れないことにする。

本書は、歴史的批評学的聖書の研究が主流になっている現代において、オリゲネスの聖書解釈のもつ意義を次のように述べている。「確かに、アレゴリーは聖書を別の聖書に変える危険性を孕んでいる。しかし、逆に捉えれば、聖書から新しい意味を発見し、聖書に新しい相貌を与える程の莫大な力が、そこには秘められているということである。アレゴリーによって解き明かされる聖書解釈には、文字通りに読んで決して得られない発見の喜びがある。我々にとって、その喜びは、これまで出会ったことのないキリストとの初めての出会いにおいて味わった喜びの再現であるといっても過言ではない」(四頁)。

(おだか・たけし)フランシスコ会士・カトリック司祭
 (A5判上製・二二六頁・二五〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)



キリスト者への問い

あなたは天皇をだれと言うか

松谷好明

Yoshiaki Matsutani



いま、キリスト者として
 考えなければならないこと

信仰告白的に生きるとは
 どういうことかを真摯に問う。
 キリスト者として
 日本人として生きる上での
 重要な指針を
 与えてくれるであろう。

四六判変型
 定価【本体 1,700 +税】円
 ISBN978-4-86325-112-0



株式会社 一麦出版社
 札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
 TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
 携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「非日常」を通して神学の営みを「歳時記」形式で
川上直哉著

被災後の日常から 歳時記で綴るメッセージ

東日本震災から一年が過ぎようとしていた二〇一二年一月、わたしは日本基督教団東北教区被災者支援センター・エマオへ専従者として派遣された。福島出身者であるわたしにとって、震災の現場に関わることのできた、非常に貴重で意義深く、内容の濃い二か月であった。

そのとき、同じ建屋にあった「仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（NPO法人「東北ヘルプ」）で事務局長を務めていたのが、この本の著者である川上直哉氏である。いつも司祭シャツを身にまとい、忙しく動き回っていた川上氏の姿を、今でも鮮明に思い出すことができる。すぐ近くにいるのにもかかわらず、お互い忙しくしていたからであろう。ゆつくりと話す機会を持つことはなかった。今思い返せば大変悔やまれる。その後、わたしは宣教師としてドイツにある日本語教会に赴き、今は帰国して東京で牧師を務めている。一方で、川上氏は震災の現場から離れることなく、務めにいそしまれながら今日にいたっている。

そのような経緯を踏まえて言えば、本書を手にとった、その

の大切にする態度や思いを「愛」の訳語としている。神がおられることを中心にしているからであろう。それが教会暦という「歳時記」として綴られ、描かれている。

そのことを大上段に構えるように語ることには決してしない。むしろ、復興という名のもとに莫大な資金を投入し、与えられたパイを勇敢に獲得しようとする態度（著者はこれを「桃太郎主義」という言葉で表現する）こそ、現場の声が取り残され、いつしか忘れ去られてしまう原因と指摘している。そして、聖書が与える極めて自由なメッセージを、既存の考えや勇ましい風潮に縛られることなく聞き取ろうとするところに、被災後の日常という現場の姿を、ポジティブな視点でとらえる著者の静かな情熱が込められているような気がしてならない。華々しくなくとも、聖書の言葉は四季折々のなかで明日へと向かわせる創造的な営みそのものである。

ひとつ新たな発見を得た。「罪」と日本語で訳しているギリ



齋藤 篤

文字をかみしめながら読んだことが、川上氏との対話のように思えたことは、紛れもない事実であり、嬉しい出来事であった。それは、文章の向こう側に「聴いた」人たちの存在があるからであろう。その相手とは、仙台YMCAでおこなわれた「キリスト教理解」という講座の受講生であり、もうひとつの相手とは、仙台にある尚綱学院中学高等学校の生徒たちである。講座や学校礼拝で語られた御言葉のメッセージが、一年の移ろいのなかで平易な言葉を用いて語られている。わたし自身が、ひとりの受講生であり、また礼拝者として、川上氏の語る言葉に耳と心を傾けることができた。

場所や時間が異なっても、一貫して語られていることがある。それを話題が散漫になることなく人に伝えるのは、決して簡単なことではない。それを可能とするのは、東日本震災という「非日常」を通して日々の生活という「日常」を歩む人々のただ中で、常に著者が現場を向いて、神学の営みを続けている結果に間違いない。そして、その現場に昔も今も変わることなく人々を見つめ、わたしたちの存在を大切にすること

シア語である「ハマルティア」の意味をめぐって、著者は「やりすぎ」と解説している。わたしは東日本震災以来抱き続けてきたひとつの疑問に対して、非常に明快な答えが与えられたのである。わたしの愛する故郷・福島が、原発事故という非常によつて、あらゆる混乱のなかに陥れられた。この忌まわしい事件は、いかに人間が効率よく、また潤いある生活を送ることができるとかという問いに対する、私たち人間の応答であった。しかし、それは明らかに「やりすぎ」であったことに気づかされた。この気づきは、わたしたちの社会において、神が聖書の言葉を通して、わたしたちに何を思い、期待しておられるかを知ることになるに間違いない。歴史と季節を通して、生きて働かれる神に出会うことのできる一冊である。

(さいとう・あつし) 日本基督教団深沢教会牧師
(新書判・二〇八頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル)

あの日がいつまた起こるか分からない。
読むごとに自分の信仰の覚悟を問われる。

神の言はつなげてはいないIII

ホーリネス弾圧記念聖会講演・説教集



ホーリネス弾圧記念聖会委員会編
貴重な講演・説教集が一人でも多くの方々に読まれ、信仰生活の一助、時代への警鐘ともなれば幸いです。ご理解とご加勢のほど、よろしくお願致します。好評の講演・説教集I/IIに続く第3弾。
四六判・二五六頁・一五〇〇円

福音の力と事実

宮村武夫著作4
最終巻総意編集集中。
第七回記念本。
四六判・三三八頁・一、八〇〇円



責任編集：永田竹司
優れた福音説教者、牧師、会者、解、注、解、説、の、指、針、を、与、え、て、く、れ、る、読、む、注、解、書！

無菌室のボーカル

前龍野雷永教会牧師 地濃誠治
牧師人生の中で一瞬交差した忘れかた、煌めきを回顧！



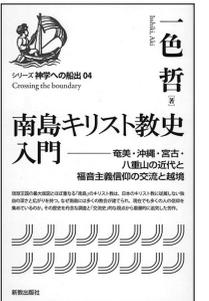
パンクロッカーのボーカルとして22歳で天逝した著者と結晶。以前、「OneWay」に掲載された大きな反響を呼び、増補改訂新版として新登場。
四六判・1,000円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
*自費出版の専門出版社*資料・呈

「足で稼いだ」意欲的な労作
一色 哲著

南島キリスト教史入門

奄美・宮古・八重山の近代と福音主義
信仰の交流と越境



後藤 聡

奄美も、沖縄も、「現代」の課題が大きいあまり、何かをじっくり考察したり、検討するエネルギーは戦後も十分ではなかった。生活が優先され、子どもたちの教育があり、その中で学問が受けとめられてきた。米軍基地や差別的本土政府に、時には妥協し、時には抗って七三年間生きてきた地域なのである。歴史学はこの地域では後発の学問であった。沖縄戦で多くの人材や歴史資料も失われた。牧師を中心とした個別の教会史があり、断片的な資料を収集することはなされたが、それら相互の関係や、それぞれの地域との関係が考察されることは十分ではなかった。

著者の一色氏は、そのような従来の歴史叙述に対して、まず「南島」をテーマとする。南島とは奄美・沖縄・宮古・八重山の各群島全体であり、この地域を、「日本」から切り離し、自律性を見出すのがこの書の方向性である。これは、現代の沖縄が置かれている位置、米軍基地のありようを見るにつけ、すべて差別性の上に立っていること、同時に歴史的には意外にこの地域におけるキリスト教受容の割合が高いことに基づいてい

る。南島は確かに辺境であり、中央から見れば周縁には違いない。しかし、そこにエネルギーがあることを著者は強く主張する。そのためさまざまな学的知見を駆使しての南島地域キリスト教史なのだが、個別の歴史事象が点から線になり、面となりそれがつながっていること、著者はそれをキリスト教交流史としてとらえ、同様に周縁に置かれた東アジアやハワイや南洋群島におけるキリスト教史が広がりをもって相互に関係するとし、循環・越境・貫流していると提案する。

本書の構成は、以下のとおりである。

- はじめに 南島キリスト教の深さと広がり
- 序章 南島キリスト教史の構造と概要
- 第1章 南島へのキリスト教「再」伝道と地域社会
- 第2章 深化と抵抗からみた「民衆キリスト教」の形成
- 第3章 南島キリスト教の広がりと越境
- 第4章 南島発祥の「民衆キリスト教」の生成と定着
- 第5章 南島の軍事化と試練に直面するキリスト教会
おわりに

表題だけでは内容を十分に把握できないが、第1章から第5章まで23節ある。23の論文があるといつてよい。

一色氏の真骨頂は、仮説をあげ、それを文献調査に加え、エネルギーシユなフィールドワークで実証することにある。

沖縄・奄美・宮古・八重山におけるキリスト教史は、もちろんすでに考察されたものがないわけではない。けれどもそこから漏れた膨大な課題を、一色氏ははいねいに関係者にインタビューして聞き取り、物故者であればメモや派生する文献を確認する。やや乱暴な言葉だが、「足で稼いだ著作」ということができる。当然といえば当然の手法で、今後、近現代のキリスト教史を論ずるのなら、方法論はいまでもなくこの著作から学ぶこと大である。

さて、それだけチャレンジ的な著作なので、沖縄や奄美での評価、あるいは方法論を含めアジア（韓国や台湾など）での評価が気になるのである。つまり、一色氏が「周縁」と規定した地域で本書がどう論じられるかということである。例えば、

「南島」という語について、琉球列島、琉球弧ではいけないのだろうか。中央があつて「南」とか「北」ということにはならないのだろうか。あるいは奄美の人々に対する沖縄の差別、キリスト教の痕跡は見られないわけではない宮古、八重山以外の離島群はどう見たらいいのか。なかったことを検討することは無駄なことかもしれないが、欧米宣教師や本土出身牧師は学校や病院を作らなかつたのはなぜかなど議論したいところである。沖縄や奄美の教会も含めさまざまな形で本書をベースにして議論が拡がるのが望まれる。一色氏が十分に述べられていない戦争中のキリスト教のこと、旧6・9部や灯台社のことの検討されなければならない。また、本書の叙述は一九四五年で閉じられている。戦後のキリスト教史はまだ生々しいことが多く困難かもしれないが、事実の評価と反省は必要だろう。「南島キリスト教史入門その2」も待たれるところであろう。

(四六判変型・三三三頁・本体三〇〇円＋税・新教出版社)



新刊
死生学年報
2018

生と死の物語

東洋英和女学院大学
死生学研究所編
●A5判並製 本体2500円＋税

『魔女の宅急便』『風立ちぬ』から
オイディプス神話へ
古川 のり子

●
西洋占星術に見る
人の生死と運命
比留間 亮平

●
社会活動における
宗教的価値の相反と克服
高瀬 功

●
金光教の死生観
奥原 幹雄

●
病氣治しと死霊の供養
渡辺 和子

●
能に見る生者と死者との交流
J. ファーナー

●
知識人と一般人の
死後生観をつなぐ
宮嶋 俊一

●
「いじめのせいで
自ら命を絶ってしまうことは
悲しすぎます」
酒井 徹

●
他、9篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunsyo.or.jp>

2018年3月号

巻頭エッセイ：神の前の立つ 丹治めぐみ		
日本プロテスタント教会史の一断面	落合建仁著、日本キリスト教団出版局	棚村重行
現代新約注解全書 第二コリント書 8-9章	佐竹明著、新教出版社	辻建
イエスの譬え話2	山口里子著、新教出版社	水島祥子
ローマ帝国のたそがれとアウグスティヌス	磯部隆著、新教出版社	高橋優子
こころの深呼吸	片柳弘史著、教文館	沢知恵
エイレナイオス5 異端反駁V	大貫隆訳、教文館	鳥巢義文
キリストは再び十字架にかけられる	ニコス・カザンザキス著、教文館	柳田富美子
改革派教会	オリヴィエ・ミエ著、一麦出版社	井上良作
説教聴聞録	門叶国泰著、ヨベル	川染三郎
聖書道しるべ	関田寛雄著、キリスト教図書出版社	木下宣世
スピリチュアルケア研究	窪寺俊之著、聖学院大学出版会	西平直
新訳 聖潔のしおり	サムエル・ブレンゲル著、救世軍出版供給部	藤本満

2018年6月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：北御門二郎とトルストイとの出会い 小宮由		
特別企画：翻訳家 中村妙子さんインタビュー		
エッセイ：『人はどのように変わるのか』を翻訳して 田口美保子		
55歳からのキリスト教入門	小島誠志著、日本キリスト教団出版局	上島一高
恵みによって生きる人間の形成	上野俊一他編著、日本キリスト教団出版局	長山道
地の塩となる教会をめざして	袴田康裕編、一麦出版社	星出卓也
み言葉に生かされ	辻哲子著、ヨベル	及川信
聖書の風景	岩井健作著、新教出版社	野本真也
キリスト教教育と私 後篇	塩野和夫著、教文館	松見俊

2018年5月号

巻頭エッセイ：座右の書の著者たちへの感謝 西谷幸介		
NTJ新約聖書注解 ガラテヤ書簡	浅野淳博著、日本キリスト教団出版局	笠原義久
バレー・シューズ	ノエル・ストレットフィールド著、教文館	三辺律子
自伝的伝道論	加藤常昭著、キリスト新聞社	張宇成
信仰の基礎としての神学	松田央著、新教出版社	中野敬一
アレクサンドリアのクレメンス ストロマティス（綴織）I	秋山学訳、教文館	津田謙治
霊魂の不滅か死者の復活か	オスカー・クルマン著、日本キリスト教団出版局	矢田洋子
神と向き合って生きる	横田幸子著、新教出版社	大嶋果織
義認と自由	ドイツ福音主義教会常議員会著、教文館	藤掛順一
神の国	及川信著、一麦出版社	左近豊

2018年4月号

巻頭エッセイ：人を嘘つきにするほどの古典を読みたい 久下倫生		
新・明解カテキズム	全国連合長老会日曜学校委員会編、教文館	吉村和雄
ふたりのスケーター	ノエル・ストレットフィールド著、教文館	徐奈美
V T J旧約聖書注解 出エジプト記1-18章	鈴木佳秀著、日本キリスト教団出版局	池田裕
いのちの水	トム・ハーバー作、新教出版社	奥田知志
コリント後書講義	小川修著、リトン	清水芳樹
新版 祈りの精神	P.T.フォーサイス著、キリスト新聞社	小島誠志
わが神、わが神	加藤常昭編、日本キリスト教団出版局	小峯明
落ちこんだら	アントニー・M.コニアリス著、ヨベル	大坂太郎
嵐と風と不思議なマント	三木メイ著、キリスト新聞社	西原廉太

朝岡勝 & 大嶋重徳 著
教えてパスターズ!!

朝岡勝 Masaru Asaka
大嶋重徳 Sigenori Oshima

「What the Pastors!!」

クリスチャンってこんなに面白い!
Podcastカテゴリランキング1位を獲得した、牧師2人による太平洋放送協会の伝説の番組「What the Pastors!!」がついに書籍化!誰もが抱える悩みを、注目の牧師2人が、軽快なトークを交えてお答えします!!

A5判・並製・220頁・本体1,500円＋税
〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 キリスト新聞社

全国のキリスト教書店員が選んだ いちばん読んでほしい本

キリスト教本屋大賞 2018

2017年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員の投票により大賞が決定しました。



こころの深呼吸
気づきと癒しの言葉366
片柳弘史◎著
972円 (教文館)

オススメ
聖のことばやキリスト教独特の表現は一切出て来ないのに、日々たった1ページ、しかも限られた文字数のなかでこんなにも心があたたまり、「神さまの愛」なるものをめいっぱい感じられる本を、他に知りません。
大阪キリスト教書店 上田玲子さん

読者が選ぶ「いいね！」大賞と
ダブル受賞！

苦しみの中で神様に助けを求めて祈っていると、思いがけない気づきが、ふと心に湧き上がることがあります。そのようにして生まれた気づきを、言葉にしまとめたのがこの本です。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

片柳弘史

全国のキリスト教書店にてフェア展開中！ぜひご来店ください

- | | | | |
|-------------------|----------------|---------------|-----------------|
| ●二次投票参加書店 | 待晨堂 | CLC BOOKS金沢店 | 神戸キリスト教書店 |
| 北海道キリスト教書店 | 教文館 | 静岡聖文舎 | 広島聖文舎 |
| 善隣館書店 | CLC BOOKSお茶の水店 | 名古屋聖文舎 | 徳島キリスト教書店 |
| 仙台キリスト教書店 | バイブルハウス南青山 | CLC BOOKS名古屋店 | 松山キリスト教書店 |
| オアシス仙台店 | 横浜キリスト教書店 | 京都ヨルダン社 | 新生館 |
| 恵泉書房 | 清光書店 | CLC BOOKS京都店 | 北九州キリスト教ブックセンター |
| 聖公書店 | ライフセンター新潟書店 | 大阪キリスト教書店 | キリスト教書店ハレルヤ |
| ABC(アパコブックセンター)書店 | 豊かな命聖書書店 | びぶろずの森 | 沖縄キリスト教書店 |

主日礼拝の祈り
越川弘英 / 吉岡光人◎監修
1,620円 (日本キリスト教団出版局)



第2位

オススメ
来店者によく聞かれるのは、「礼拝の中で祈りをする機会があるのですが、参考になる本はありますか？」です。本書は、主日礼拝の祈りを例示する祈禱集です。祈りの参考におすすめの1冊です。
仙台キリスト教書店 黒田 忠さん

オススメ
大切なことはとてもシンプルなのに、複雑な教会生活に息切れしそうだっ私には少し刺激的でした。やわらかな版画に、詩のようななめらかなことばなのに、私も泉を求めているひとりなのかもしれません。
善隣館書店 大森紀代美さん



第3位
いのちの水
トム・ハーパー◎作 中村吉基◎訳
望月麻生◎絵 1,620円 (新教出版社)

聖書を読んだ30人
夏目漱石から山本五十六まで
鈴木範久◎著
1,728円 (日本聖書協会)



第4位

花の詩画集
足で歩いた頃のこと
星野富弘◎著
1,728円 (偕成社)



第5位

地図で学ぶ 宗教改革
ティム・ダウリー◎著
青木義紀◎訳
2,592円 (いのちのことば社)



第6位

はじめは愛着から
人を信じ、自分を信じる子どもに
佐々木正美◎著
山脇百合子◎画
972円 (福音館書店)



第7位

広げて見る
聖書・キリスト教歴史年表
青木義紀◎訳
3,024円 (いのちのことば社)



第8位

聖書は何と語っているでしょう
「生きること」「死ぬこと」そして「永遠に生きること」
湊 晶子◎著
1,080円 (ヨベル)



第9位

ポップカルチャーを哲学する
福音の文脈化に向けて
高橋優子◎著
2,160円 (新教出版社)



第10位

神父さま、なぜ日本に？
ザビエルに続く宣教師たち
女子パウロ会◎編
1,296円 (女子パウロ会)



第11位



主催 キリスト教出版販売協会
※表示価格は8%税込価格

フェイスブックページで「いいね！」をクリックして最新情報をGET！
<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear>
読者が選ぶ「いいね！」大賞の結果やキリスト教本屋大賞の詳細は上記ページをご覧ください。



書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwks24@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区錦2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbdo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatare.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	沖縄県浦添市読書777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※ 一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■新教出版社

私の信条

——キリスト教信仰と政治（仮題）

アンゲラ・メルケル著／松永美穂訳

東独で牧師の娘として成育し、統一後は少壮政治家として頭角を現し、2005年からドイツ首相を12年以上務めているメルケル。東日本大震災後に原発からの撤退を決断し、また難民危機に際して積極的な受け入れを指示するなど、その政策は現代世界に大きな影響を及ぼしている。本書は、彼女が教会関係の集会などで語った演説や聖書研究などを収録し、その信仰観や人生観を余すところなく伝える注目の書。

四六判・予備1900円

■日本キリスト教団出版局

神についていかに語りうるか

——プロテイノスからウイトゲンシユタインまで

W・シユスラー編／芦名定道監訳

「神／超越／絶対について人間がどのように語ることができるのか？」。神学・哲学の根源的テーマに取り組んだ、ギリシア哲学、古代教父から、トマス・アクィナス、シユライアマハー、現代の神学者・哲学者、東洋の道教・仏教といった東洋思想まで、古今東西の議論を紹介。

A5判・上製・490頁・本体6500円

エレミヤ書を読もう——悲嘆からのちへ

左近 豊著

祖国ユダ王国の崩壊期に働いた預言者エレミヤ。民を厳しく問い、

民と悲しみを共にし、そして未来の希望を指示した彼の言葉を、今、この暗い時代にこそ聴き直そう。旧約学の確かな学識と牧会経験を基に、エレミヤの言葉を、生き生きと甦らせる待望の書。

四六判・136頁・1400円

■教文館

子どもの賛美歌ものがたり

——イエスさまいるってほんとかな

大塚野百合著

短くやさしい歌詞に込められた願い、祈り、信仰。すべての人に贈る「子どもの賛美歌」の魅力溢れる豊かな世界をめぐる、好評のエッセイ集。

四六判、168頁、本体2000円

ヨハネ福音書入門り

R・カイザー著／前川 裕訳

詩的な響きをもって「イエスとは誰か」が語られるヨハネ福音書。基礎的な知識から現代での読み方までカバーし、聖書との対話へと読者を誘う。

B6判、344頁、本体3900円

あまつましみづ

——異能の改革者永井英子の生涯

永田圭介著

讚美歌『あまつましみづ』の作詞者、永井（松本）英子。日米で活躍した不世出の才女の、知られざる壮絶な人生ドラマ。

四六判、280頁、本体2500円

福音と世界

2018年9月号

特集 食と「動物の権利」
アニマル・ラフ

寄稿者 草柳千早、野林厚志、佐藤衆介、
鬼頭葉子、浅野幸治

アジア・エキメニカル青年総会報告（藤原佐和子）
／ 個・関係性・人格性——ルターの問題とわれわれ・
下（松浦純）／ 好評連載 福音の地下水脈（I K A Z
U G O K E）、野に咲く民衆の神学（森宮雄）、聖書と
わたし（谷崎榴美、地のいと低きところ）にホサナ（フ
レイディみかこ）、現代神学の冒険（芦名定道）ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

全国のキリスト教書店の投票で決まる、キリスト教本屋大賞は今年で八回目となりました。SNSでの投票による「いいね！」大賞も新設され、今年は、片柳弘史『こころの深呼吸 気づきと癒しの言葉366』（教文館）が、キリスト教本屋大賞といいね！大賞を受賞となりました。本書はインターネットで配信された著者のメッセージから、一日ひとことずつ、挿絵と共にまとめられた一冊です。「寝る前に読んでいます」「手元に置いてくり返し読んでいます」といった読者の方も多いようです。

先日知人が長期の入院となり、お見舞いに訪れました。差し入れとしてお花やお菓子も考えましたが、やはり本を選びました。闘病中の楽しみになることを祈って、作家による人生論、アートスポット案内、本屋の開店日記、宗教入門などの本を持

参しました。健康なときにはまるですつと生きられるかのように消費を繰り返して暮らしていますが、身近な人が病にかかると、世界が一八〇度変わって見えてきます。死が身近にあり、悲しみや辛さを胸に抱えながら日々を生きている人が多くおられることを実感しています。

これまでキリスト教関連の本を読んだり、教会を訪れたりして、キリスト教は正しい答えを与えるのではなく、「なぜ、何のために生きるか」「なぜ死ぬか」という根源的な問いをまるごと受けとめて、共に歩んでくれるようなものであると捉えています。喜びも悲しみも、どんなことも飲み込んでくれるような。何かを制限して強制するものであるならば、二千年以上も人々の間に福音として存在できないのではないのでしょうか。そんなとき、「そんなあなたではいけない」と叱咤し、理想に向かって鼓舞するリーダーではなく、弱さに同伴し、共に寄り添うイエスの姿が思い浮かびます。

病に倒れている人に、体の痛みはなくても元気をなくし落ち込んでいる人に、現実が何も変わらないとしても、その日、その夜を乗り越えられる心の支えになる本を少しでも届けられたらと思います。（福永）

本のひろば 2018年10月号 予告

本・批評と紹介…ピंक・ダンデライオン著『クエーカー入門』、菊地 順著『テイリッヒと逆説的合一の系譜』、S・ハワーワス／J・パニエ著『暴力の世界で柔和に生きる』、加藤哲平著『ヒエロニムスの聖書翻訳』他

ヨハネ福音書の
独自性を明らかに



ヨハネ福音書入門
R・カイザー 前川裕訳
● B6判 344頁・本体3,900円
詩的な響きをもって「イエスとは誰か」が語られるヨハネ福音書。基礎的知識から最先端の読み方までをカバーし、その独自性を明らかにし、聖書との対話へと読者を誘う。ヨハネ研究に長年取り組んできた著者の初訳書。

子どもの賛美歌ものがたり

大塚野百合

イエスさまいるってほんとかない



● 四六判 160頁・本体2,000円
短く、やさしい歌詞に込められた願い、祈り、信仰。「きょうだいげんかを」(作詞・阪田寛夫)をはじめ、「子どものための賛美歌」の魅力溢れる豊かな世界をめぐる、好評のエッセイ集。

さらなる読書のために

「主われを愛す」ものがたり

大塚野百合

賛美歌に隠された宝
表題作ほか、作詞者・作曲者の生涯と信仰をたどり、誕生秘話や原詩歌に隠された「本当のメッセージ」に迫る。● 本体1,900円

この一冊で聖書がわかる!

旧約新約聖書ガイド

創世記からヨハネの黙示録まで

A・E・マクグラス 本多峰子訳

全世界に絶大な影響を与えた聖書。現代を代表する神学者が、多様な形式が用いられた壮大な書物を概観し、全66巻を一举に解説! 素朴な疑問をコラムで取り上げるほか、理解を助ける年表・地図・図版を豊富に収録。



「聖書の言葉に生きる神学者による聖書の手引きである。優れた、豊かな、そして確かな一冊である」
深井智朗氏

● A5判 734頁・本体7,200円
【目次内容見本】



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

